

令和元年度 事業計画

【令和元年度 法人としての事業方針】

「八幡浜の次代を担う子どもたちの育成」

令和元年度の当法人の方針は、29年度から掲げている「次代を担う子ども」をメインターゲットに、「八幡浜の地域資源を活用したビジネスプランコンペ」を開催します。引き続き、八幡浜の次代を担う「子どもたちの育成」に力を入れ、子どもたちが考えたアイデアを募集・発信していくことに取り組みます。

また、当法人は任意団体創立時から10年を超えており、私たちがまちで担う役割を見直した上で、事業を選択・集中し、次代に受け渡しできる体制づくりに引き続き取り組んでいきます。

なお、今年度から2年間、共生地域創造団体からの助成金「えひめ伴走型支援助成金」を受給し、愛媛県内における西日本豪雨被災地に対し、中間支援組織運営のノウハウ提供を行います。

<今年度の主なテーマ>

1. 中間支援事業の推進力の強化
2. 子どもが考えるビジネスプランの育成
3. 子どもの参加促進と情報発信力の強化
4. 中間支援組織運営のノウハウ提供

【各事業等の計画】

1. つながり事業

(1) まちづくり意見交換会（オチャップ）

今年度も引き続き、みなと交流館と共催し、1回の開催を予定しています。今年度も主に子どもに焦点をあて、親世代も巻き込みながら子どもたちが地域に目を向けられるオチャップにしたいと思います。出てきたアイデアは、集約・整理して、誰もが見える状態にしていきます。

(2) 交流会

メンバー同士の親睦を深めるため、ざっくばらんな交流会（合宿等）を開催します。YGPに対して興味がある人も募り、気軽に地域のことや団体のことを語り合い、今後につながる機会にしたいと思います。

2. まち育て事業

<プロジェクト>

(1) 88プロジェクト

毎年5月5日に「BOCO タワー世界選手権」を開催し、練り物産業の振興を図ります。それ以外の日にも、「BOCO タワー体験」及び貸出を通じて、子どもたちに向けて、八幡浜のことを知ってもらうこと、愛着を持ってもらうことを目指します。そのために、貸出パッケージの改善を行い、広報にも力を入れていきます。

(2) 「八幡浜の地域資源を活用したビジネスプランコンペ」の開催

八幡浜市内外の小学生～大学生を対象に「八幡浜の地域資源を活用したビジネスプランコンペ」を開催します。開催までに、専門家を招聘し、アイデアをビジネスプランにしていくためのワークショップ（勉強会）を開催します。特に、八幡浜市の子どもたちについては、個別ブラッシュアップをしていきます。コンペについては、一次審査は書面審査を行い、二次審査は、市民向けに公開プレゼンテーションを開催し、市内の企業等とのマッチングを図ります。実施にあたっては、コダテルと共催にて行います。

(3) 「八幡濱港拓」の共催

八幡濱港拓実行委員会主催。愛媛県八幡浜市の宝である「松村正恒氏」設計の建築群をはじめ、歴史を感じながら、地域の子どもたちが来場者へガイドを行う「港拓」（「まち・建築」を拓（ひら））を共催します。八幡浜市全域の素晴らしい景観や建物などを再確認していただき、地域への誇りと愛着を育みます。また、子どもたちが主体的に関わることにより、八幡浜の未来を切り拓く人材を育成します。

(4) 「子ども・けんちく学校」の共催

公益社団法人日本建築家協会四国支部愛媛地域会（JIA）の主催で、身近な存在の建築やそれをとりまく環境に関して、楽しく分かりやすく学ぶ機会として「子ども・けんちく学校」を開催します。

<中間支援事業>

(1) みなと交流館等指定管理業務における中間支援業務へのリソース提供

引き続き、みなと交流館中間支援業務に力強いリソースを提供していきます。同館内の他業務やYGP内の事業と連携しながら、全員で中間支援を行っていきます。

なお、本年度についても、NPO法人活動助成事業（中間支援）の助成を受ける予定です。

(2) 中間支援パッケージの強化・売り込み

「活動紹介書」を増刷・活用し、メンバー全員でYGPに対する理解・共感を獲得していくとともに、当団体が提供できる講座やツールなどを売り込んでいきます。

なお、本年度は、公益財団法人共生地域創造財団からの助成金「えひめ伴走型支援助成金」を受給し、2年間かけて愛媛県内における西日本豪雨被災地に対し、中間支援組織運営のノウハウ提供を行います（別掲）。

(3) 中間支援組織運営のノウハウ提供（2年間）

西日本豪雨被災地における中間支援組織の運営に係るノウハウの提供を行います。ノウハウには、具体的な業務計画策定から評価指標の設定、また、域内での講座開催やプロジェクト展開の方法、個別団体支援の手法など多岐に亘る分野で行います。

また、オチャップを通じた、対象地域に眠る資源や課題の見える化や、同地域の住民が主体的にまちに関わるきっかけづくりの手法も伝え、次のアクションに踏み出す住民を増やす戦略的アプローチも伝授していきます。さらに、チームワーク形成ツール「BOCOタワー」を通じて、地域内の顔の見える関係づくりや地域活動団体のチーム力向上を目指す手法も提供していきます。

さらに、地域活動団体の活動紹介及び共感・応援・参加の意思表示ができるWEBサービスを制作・公開・運用します。同サービス内で、仲間集めや緩やかなコミュニティ形成が行えるよう機能改善を行いながら正式リリースを目指します。

3. 事務局

(1) 情報共有

① 理事者間での情報共有

理事会については、総会の議題を決定する6月頃と、半期の振り返りを行う10月頃の年2回開催します。また、随時、理事ミーティングを理事者の議事持ち寄り形式で行い、効率的に情報共有・方針決定を行います。上記には、必要に応じて責任者やメンバーにもオブザーバー参加を求め、法人の運営に関与してもらうように働きかけます。

なお、日常の情報共有・決定については、現在導入しているグループウェア「K i n t o n e」（キントーン）を昨年度に引き続き活用していきます。

② 正会員との情報共有

情報共有・チーム作り・レベルアップなどに合わせて、今年度は交流を深めるということも意識し、全体会を1ヶ月～3ヶ月に1回開催します。

なお、日常の情報共有・決定については引き続き「K i n t o n e」（キントーン）

を使うとともに、「LINE」を積極的に活用し、情報共有の即効性を高めていきます。

(2) 正会員の拡充とアプローチ

サポーターや活動参加者の中で、運営にも関わってもらえるメンバーを増やしていきます。(目標：純増1名)

また、参加率を上げるため、直接話す機会を理事者や責任者が中心となってカウンセリングやフォローアップを行っていきます。

(3) サポーター(支援者含む)の拡充とアプローチ

今年度は、イベント等に継続して参加していただいている参加者層をターゲットに、サポーター獲得を目指していきます。(目標：純増3名)

(4) PR活動(広報)

ホームページ、ブログ、フェイスブック、ツイッターを基本ツールとして、活動の予告・結果などの情報を発信していきます。YGPのファンに、まずはなっただけできるよう、魅力的な情報発信に心掛けるとともに、頻度を上げて随時更新をしていきます。

なお、リニューアル後のホームページについては、早期公開ができるよう準備を進めていきます。

(5) 渉外活動

原則、YGPの独自事業を優先するとともに、受ける際は、組織内ルールに基づいて、諾否・対応者等を決定していきます。

(6) 会計

今期も引き続き、「ボランティアの件費換算」を行います。目に見えないボランティアの件費を時間数×愛媛県の最低賃金にて算出し、活動計算書に計上します。

(7) 事後管理(記録・評価)

活動後、その都度反省や評価、ノウハウを記録し、報告業務の効率化を図ります。なお、記録漏れがないように理事ミーティングにて随時チェックをしていきます。

令和元年度 活動予算書

令和元年4月1日～令和2年3月31日

特定非営利活動法人八幡浜元気プロジェクト

科 目	金 額 (単位:円)		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	32,400		
		32,400	
2 受取寄附金			
受取寄附金	300,000		
受取諸謝金	20,000		
ボランティア受入評価益	5,000,000		
		5,320,000	
3 受取助成金等			
受取助成金	3,300,000		
		3,300,000	
4 事業収益			
つながり事業収入	10,000		
まち育て事業収入	20,000		
		30,000	
5 その他の収益			
活動支援金収入	0		
雑収入	15,000		
		15,000	
経常収益計			8,697,400
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
ボランティア受入評価費用	3,000,000		
人件費計	3,000,000		
(2)その他経費			
つながり事業	20,000		
まち育て事業 (88プロジェクト他)	300,000		
まち育て事業 (中間支援事業)	1,800,000		
支払手数料	1,000		
通信運搬費	1,000		
会議費	3,000		
支払保険料	10,000		
消耗品費	5,000		
雑費	2,000		
その他経費計	2,142,000		
事業費計		5,142,000	
2 管理費			
(1)人件費			
ボランティア受入評価費用	2,000,000		
人件費計	2,000,000		
(2)その他経費			
支払手数料	3,000		
HP管理費	21,600		
賛助会員費 (ボーイスカウト・子どもチャレンジ)	2,000		
通信運搬費	1,000		
消耗品費	5,000		
印刷製本費	10,000		
繰延資産償却	0		
その他経費計	42,600		
管理費計		2,042,600	
経常費用計			7,184,600
当期経常増減額			1,512,800
当期正味財産増減額			1,512,800
前期繰越正味財産額			△ 236,920
次期繰越正味財産額			1,275,880

※ 今年度はその他の事業を実施しません。

(備考)

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。
- 2 「事業費」とは、法人の事業の実施のために直接要する支出で、管理費以外のものをいい、会計処理上は、事業の種類ごとに区分して記載する。事業費の例としては、「〇〇事業費」(注・・・当該事業の実施のために直接要する人件費・交通費等の費用が含まれる。)等が挙げられる。
- 3 支出規模(事業費+管理費)でみた特定非営利活動に係る事業の割合、総支出額に占める管理費の割合等は、特定非営利活動を行うことを主たる目的とすること、営利を目的としないものであることという法定要件への適合性の判断材料となる。

(注記)

- 1 正会員受取会費・・・正会員10名(うち1名高校生以下)で計上しています。
- 2 受取寄附金・・・寄付金目標額300,000円で計上しています。
- 3 受取助成金・・・NPO法人活動助成事業(中間支援講座等300千円:申請中)
えひめ伴走型支援助成事業(3,000千円:2年分)